

# 厚木市立三田小学校 学校だより

## さんさんさんだ

発行者 厚木市立三田小学校  
 校長 清水 良  
 所在地 厚木市三田515  
 電話 046(241)1040  
 Email sanda-es@edu.city.atsugi.  
 kanagawa.jp  
 2月1日現在児童数 786名  
 令和2年2月20日発行



### 「学校・家庭・地域のつながり」

校長 清水 良

2月は、4日が立春で暦の上では春を迎えました。今シーズンは「暖冬」で氷が張るほどの冷え込みがなかなかありませんでしたが、2月7日早朝の冷え込みでようやく氷が張りました。生活科で冬の季節を学習している1年生が、「氷ができた。」と喜んで活動している姿を見て、やっと冬が感じられたなど安心するとともに、日本の四季や気候はどうなるのだろうかという不安も入り交じり複雑な心境でした。

4日(火)に「子ども見守り隊総会」、7日(金)に「学校運営協議会」を開催し、地域の方々に子ども達の学習の様子を参観していただきました。日頃からの登下校の安心安全の確保や様々な教育活動へ支援をいただいている地域の方々の協力により、子ども達の学びが豊かになり、三田小学校は、コミュニティ・スクールとなってから「地域とともにある学校」として着実に歩みを進めています。三田小学校区の地域の力の素晴らしさを感じるとともに、感謝の念に堪えません。

厚木市では、「地域ぐるみ家庭教育支援事業」を公民館区ごとに取り組み、地域で子どもを育てるために、家庭教育支援を通じた地域のネットワークづくりに力を入れて様々な行事を行っています。親子で行事に参加することで他の家庭や地域の人とつながり、地域ぐるみで子育てをしようという環境づくりをしています。私は以前、家庭教育のフォーラムである大学の先生から、「家族ぼっち」という言葉を聞きました。私が育った「昭和」の時代と比べると、家庭の在り方はどんどん多様化しており、ご近所や地域となかなかつながれない、また、つながろうとしない家庭が増えているということでした。最近も、家庭が孤立し子どもが犠牲になる事件も報道で耳にしています。

子どもの健やかな成長には、家庭の役割、学校の役割、地域の役割がありますが、それぞれがそれぞれでなく、思いを一つにしてしっかりと連携することが重要です。学校と地域がつながってきているところに、ぜひ、家庭も地域とどんどんつながって、三田小学校の児童が一段と成長できるような環境をつくっていきましょう。皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

## 三田小 ちょっといい話

学校では、廊下だけでなく、昇降口や校舎の周り、つまり校庭に出るまでは歩くことになっています。でも、子ども達は、早く遊びたい・場所を取りたい・早く教室に戻らなくては・・・と、走りがちです。これを何とかしようと生活委員会の子供達が、「みなさん、廊下を歩きましょう。歩いて、花畑に花を咲かせましょう。」と呼びかけを始めました。活動名は、『廊下歩行の花畑』。きちんと廊下を歩いていけばシールがもらえ、そのシールをクラスに配付された花の絵の台紙に張って、きれいな花畑にしようというものです。子ども達みんなが安全に過ごすため、命を守るためにルールはあります。これを意識して、残り少ない3学期を怪我無く元気に過ごしてほしいと思います。

自分たちの学校は、自分たちでよくしていこう!! がんばれ 三田っ子!

(総括教諭)

## <第3回学校運営協議会>

2月7日(金)に第3回学校運営協議会が行われました。今回は「学校評価」と「各グループの活動報告」が主な議題となっております。今年度は、学校運営協議会の皆様に直接お手伝いをいただいたり、地域の方々へお手伝いの声かけをしていただいたり、様々な場面でご尽力いただきました。本当にありがとうございました。以下に活動の一部の様子をまとめました。学校の力のみでは到底なしえなかった様々な学びの機会をいただきました。よりよい三田小学校、三田小学校区となりますよう、今後ともご支援ご協力をお願いいたします。「学校評価」については、後日あらためて発行される学校評価・特集号」でお知らせします。

学校運営協議会とは？

- PTAの方や地域に住む様々な立場の方に学校運営協議会委員となっただき、これからの三田小学校の子ども達を支え、応援するために話し合いをしています。

**スポーツテスト**

厳しい暑さの中、連日のお手伝いありがとうございます

**三田っ子農園**

たくさん収穫できました!

**ミシンボラティオ**

**収穫祭**

**花**

## 2020年 学習指導要領の全面実施に向けて

**改訂のポイント** (文部科学省では、10年に1度学習指導要領の改訂を行っています。令和2年度が、その年になります。)

近年、日本では情報が溢れ、グローバル化が急速に広がりつつあります。また、人工知能(AI)の飛躍的な進化など、社会の変化は著しいものがあります。そのような予測困難な時代にあっても、未来の創り手となるために必要な資質・能力を確実に子ども達に育むことが必要です。そのためには、新しい時代に必要となる資質・能力の育成が大切となります。

そこで新学習指導要領では、「**学びに向かう力・人間性の涵養**」「**生きて働く知識・技能の習得**」「**思考力・判断力・表現力等の育成**」を目指していきます。

**具体的には、来年度は外国語活動の充実のために**

- 3・4年生は、「外国語活動 35時間」5・6年生は、「外国語 70時間」が必修になります。

**情報活用能力向上のために**

- コンピュータ等を活用した学習活動の充実、プログラミング的思考の育成を図ります。

**評価の仕方が変わります**

評価の観点<sup>かんよう</sup>が全教科3観点に統一されます。更に、「あゆみ」の様式も変わります。詳しくは新年度に改めて説明させていただきます。